

スポーツクラブが地域に及ぼす影響力と地域発展に向けた働き

水野翔平

本研究ではスポーツクラブが地域に及ぼす影響をサッカーという競技から研究する。日本のプロサッカーリーグである「Jリーグ」は国内のプロスポーツリーグの中で2番目の売上規模を誇っており、国内で人気のスポーツであると言える。

Jリーグ全体の売上も年々増加しており、2017～2018 シーズンには1105億円と、大台である1000億円を超える売上を上げている。今回はスポーツクラブが地域に及ぼす影響を明らかにするため、Jリーグのクラブの中で一番の営業収益、観客動員数を誇っている「浦和レッズ」、2010～2019 シーズンにわたってJリーグが行った調査で「地域に大きな貢献をしている」クラブとして、10年連続で1位を記録した「川崎フロンターレ」、地域密着運営を特徴とし、スポーツ以外の施策が多く見られる「アルビレックス新潟」、サッカースタジアム活用の好例とされている「鹿島アントラーズ」の4クラブを比較対象に挙げる。地域の特性の違いから各クラブがどのようなプロモーション活動を行っているのか明らかにし、地域の違いから生まれるプロモーション活動の狙いや効果的なプロモーション活動の特徴を明らかにしていく。またスポーツクラブのある地域はスポーツクラブの存在をどのように地域発展に活用していくのかスポーツクラブと地域の相互的な観点から考察していく。

第1章ではスポーツクラブが及ぼす影響を大きく五つのカテゴリーに分けて整理した。また第2章から第6章ではJリーグの概要と各クラブの特徴的な取り組みを取り上げ、それぞれのクラブの傾向を明らかにした。

第7章では各クラブの取り組みの傾向を整理し、効果的なプロモーション活動の違いを考察した。考察していく中で実際に今回取り上げた四つのクラブもそれぞれ違った特徴があり、それはクラブの状況や地域の特徴、文化に寄り添ったものであることが分かった。

加えてそういった中でも各クラブで共通している点もいくつか見られた。この点はスポーツクラブ全体にも言えることであり、スポーツクラブがどのような存在であるべきなのか明らかにする事が出来た。

そして第8章では今後のJリーグの展望を述べた。各クラブの取り組みはJリーグ全体の人気にも表れており、Jリーグ全体の人気も過去最高までに上がりつつある現在、Jクラブは地域にとって間違いなく重要な存在になっていると考える。そして今後こうした動きに対してクラブと地域の結びつきがさらに強固なものとなり、よりスポーツクラブが地域にとって欠かせない存在になることが期待される。